

埴町の祭

埴の灯籠流し



民俗行事とし、早くから旧盆の終る七月十六日には、各戸毎に先祖の精霊を送り出す諸行事を行ったが、その一つに、海岸や、川辺の家では、板や紙等をもって、小さな灯籠を作り、火をともして水上へ浮かべ送り出す、いわゆる灯籠流しが行われた。県

内にも、地域行事として行われ、県都福島では、阿武隈川での行事は早くより行われている。

ここ埴の灯籠流しは、故金沢春友さんの書かれたものに依ると、昭和五年七月末(当時常豊村長)時の行事であった。在郷軍人



の点呼があり、執行官がここ埴の桜木橋を渡られた折、川の流れが緩やかであり、灯籠流しには、好適な所との話があり、時の常豊小学校長深沢定先生と共に実行にかかり、同校職員であった鈴木泰芳氏に尽力を依頼、埴の青年会を動かし始められた行事とされている。

その後年々受けつがれ、精霊供養はもとより、花火打上げ、盆踊り大会等併せ行われてきたが、新暦の生活となつては、八月十六日に行われ、更に他町村との行事のかわりから十五日の行事となり、又灯籠も従来のものへ加えるに創意工夫が見られる。大型となり、賑やかに当地方の年中行事の一つとなっている。